

社会体験研修概要

研修名	教員長期社会体験研修
所属・名前	朝明高等学校 教諭 中村優子
期間	2016.4.1～2017.3.31
研修場所	中日新聞 名古屋本社
研修目的	<p>新聞づくりを通して、多くの人の考えや、知識、文化、多様な価値観に触れる。またそれを後に教育現場で伝えていく。</p> <p>一年を通じて次の部署を経験する。NIE事務局、社会部、教育報道部、三重総局、整理部、校閲部、運動部、経済部、写真部の以上事務局一カ所、地方支局一カ所、編集部七カ所で仕事を行う。編集部は、他に文化・芸能部、生活部、デザインがあるが、以上の部署では話を伺う。</p> <p>新聞社でしか体験できないことを積極的に行い、社会に向けての視野を広げる。教科、商業・社会・情報の分野でも今後、経験したことを取り入れ、指導できるように社会の仕組みを学ぶ。</p>
研修内容	<p>NIE事務局を中心に、各部を経験し、記者活動や、新聞を生かした授業づくりの考案など、教育に役立つ経験を積む。</p> <p>主に、NIE事務局では教育に直接かかわる部分で教材作りや、新聞を活用した授業の展開を考案する。各部署では取材を通して、世の中の動きや出来事、人との出会いの中から、教育に求められている課題などを見つける。</p>
研修の成果	<p>以前は、一般の会社で働いた経験がなかったため、商業を教える立場の教員として「世の中はこう動いている」と自信を持って伝えることができなかった。実際働いてみて、想像していた通りの部分と、そうではない部分があり、経験しないとわからないことがあると実感した。</p> <p>新聞社という特殊な職業ということもあり、500人以上の人たちと出会うことができた。そのどの方とも印象深い話や、その人しか語れない、その人ならではの生きてきた重みのある話を聞くことができた。</p> <p>様々な価値観や、生き方の中で、そのことを尊重する一方、よりよい社会をみんなで作りに上げていくにはどうしたらいいか社会体験を通して考えることができた。教育現場においては、そのような社会で、子どもたちが自分らしく、そして強く、共存しながら生きていくために私が経験したことが直接的、間接的に役に立てられたらと考えている。</p>